TNVN network news
東京日本語ボランティア・ネットワーク
2009.3.13発行 No.65
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1☎03-3235-1171（呼出） 東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

おめでとう！

2008年12月6日、TNVNは満15歳になりました。1993年11月に開催された東京ボランティア・センター（TVC）の「ぽらんてぃあ・めっせ」分科会「ボランティア日本語教室」での熱気をエネルギーにTNVNを結成。関わった方々から思いを寄せて頂きました。

東京日本語ボランティアネットワーク（TNVN）【創立15周年！】

◎創設者・NPO法人IWC国際市民の会
代表 伊藤 美里

何事も「始めは些細な事が発端」とは世の常。15年前、一人の生徒が埼玉へ越したが、日本語をもっと習いたいと、1時間以上かけて勉強に来るので、習う方も教える方も住所の近くに教室があったら良いのにと、TVCの会合で、今は亡き豊島氏と話し合った。そして東京にどの位の数のボランティア教室があるのかと、センターの資料に基づき往復はがきで呼びかけ、幕を開けると飯田橋の会場が参加者で埋まった。呼びかけ人は豊島氏と私の二人だったが、その場で林川氏が事務局担当を申し出てくれた。各教室の場所を鉄道地図上に書き入れたマップも作った。先の生徒には住所に近い教室を２～３紹介したが、ある日再び戻ってきた。いわゆる善意はあるが教え方は今一つという教室らしい。それで初年度は教授法の講習会に力を入れた。しかし其の資金を或る財団に助成してもらった事で会員との間でこじれが生じ、私は間もなく引退した。発足当時、連絡先をTVCの貸しポストにした事が、今までの継続には大いに功を奏したと思う。引き続き活動してくださっている皆様に心から感謝している。

◎一般社団法人ＯＣＮｅｔ
代表理事 鈴木 昭彦

OCNetではこのネットワークより1年早い1992年の結成以来、地域に暮らす外国籍住民・移住者の方々のための多言語相談や日本語学習支援に取り組み、またともにいろいろな交流行事、学習会などを行って来ました。初期は本当に手探りの運営でしたので、このネットワークを通して、豊島さん、中田さん、前田さん、林川さんなどの皆さまを知り、励まされることが多くありました。そのころの熱気を思い出します。今後も利用者増が予測されますので、より対等な学びの場として、日本語学習相互支援の場として、私たちの「にほんごのひろば」の運営にあたり、また、このネットワークの一員としてやっていきたいと思います。

◎NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会
事務局長 後藤 麻理子

15周年を迎えられたんですね。誕生の瞬間に立ち会った者の一人として感慨深いものがあります。結成当時、東京ボランティア・センターのスタッフだった私は、センターの主催イベントの分科会企画で初めて皆さんと出会いました。そしてその時だけで終わるのではなく、恒常的なネットワークを作りたいという熱い思いを伺い、また、日頃から日本語ボランティアニーズが高まる気配を感じていたこともあり、その後もセンターとして日本語ボランティアのネットワーク作りを応援することになりました。

週に１回センターに集まり“事務局”を開きたいとの相談があったとき、負担にならないかしらと案じたのですが、今に思えば、それぞれのやり方で活動していたグループ（人）が定期的に顔を合わせ、かつ、外からも見える場を開いたことが、何よりこのネットワークの特長であり、継続している秘訣なのではないかと思っています。

これからもネットワークがますますご発展されることをお祈りしています。

TNVNがよちよち歩きを始めた頃、各地から集まり、お互い初対面だったスタッフたちが一緒にすぐ活動できたのは、TVCの後藤さんが、また故豊島さんが水先案内をしてくださったおかげだと感謝しています。

（TNVN事務局　林川玲子）

発足15周年を過ぎた今、思うこと

寄稿

山田　泉
（TNVN運営委員）

1993年、東京で活動する日本語ボランティアやその関係者の集いが開かれた日を鮮明に記憶しています。暗中模索の状態で日本語学習サポートをしていた人たちが互いに情報を交換し、より役に立つサポートの在り方を考えたいと、はじめて一堂に会したのがこの集会でした。これを契機として、東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN)が発足しました。

日本語を学習したいと思っているニューカマーに、アクセスしやすい教室を互いに知らせ合うということも可能となりました。また、TNVNが企画する研修会や勉強会などで、日本語学習支援に必要なさまざまな事柄を学ぶ機会も得られ、ノウハウの共有もできるようになり、ニューカマーの人々の日本語を学び、日本語で社会参加をしていきたいという思いによりよくこたえる仕組みができたといえます。

その後、個々の団体が５年、10年と経験を積み、それぞれでノウハウを蓄積してきました。そして現在では、横のつながりから互いに学ぶというより、自己完結型でそのノウハウを新たに参加したボランティアに伝えることも可能となりました。ということは、発足当初のTNVNの存在意義が変わっていると考えられます。しかし、以前のニューカマー学習者にも、新たに日本に来たニューカマー学習者にも、その人たちの学習条件はそれほど変わっていない部分があると思います。それは、多くの教室は週１回、１時間半から２時間程度の学習時間だということ、またノウハウの蓄積ができたといっても多くのボランティアはあくまでも「日本語教育のプロ」ではないという条件です。

わたしは、ボランティアによる日本語教室(「日本語活動」の場)は、ニューカマー学習者も日本語ボランティアも互いに学び合い、ともに暮らす地域社会や日本社会がどうあったらよいかをともに考え、実際にありうべき社会にすべく活動していく、双方が「ボランティア」として、その能力を高め合っていく場だと思います。教える側と学ぶ側が一方的で固定している「日本語教育」は、公的に保障され、専門家によってなされるべきと考えています。もちろん、その専門家は、ニューカマー生活者に対しての「地域日本語教育」の専門家でなければなりません。

また、この間、日本生まれも含め子どもたちへの取組の必要性が大きくなってきています。これらの子どもたちへの教育は、文部科学省に諸外国と同様に、日本でも学校教育を義務教育とする決断を迫り、国籍に関係なく子どもの発達する権利を公的に保障する責任があることを自覚してもらう必要があります。これらの子どもたちの多くは日本で成人し、社会参加していくことになります。もはや日本で自己実現の過程を歩んでいるのは日本人だけでないということを、この国の政府や広く一般の「国民」に理解してもらい、それに必要な社会の制度や人々の意識を構築していくべきことを知ってもらうことが必要と思われます。

では、これらについて訴えていく主体はだれなのでしょうか。当事者であるニューカマー市民が中心となることはもちろんですが、ともに声を挙げて、当事者をサポートすることができるのは、長年、当事者とともに学んできた個々の日本語ボランティアです。しかし、当然個人ができることには限度があります。わたしたちはTNVNが作られた経緯やそこで取り組まれたノウハウが蓄積されてきたことに思いをいたし、ぜひ横の連携をいま一度強化し、当事者とともにこれら新たな社会の在り方を提言する一方の主体となっていけたらと思います。

15周年を過ぎた今、TNVNの新たな役割が生まれていると考えます。

調査報告

ボランティア日本語教室における学齢期児童・生徒の学習支援の活動状況に関するアンケート

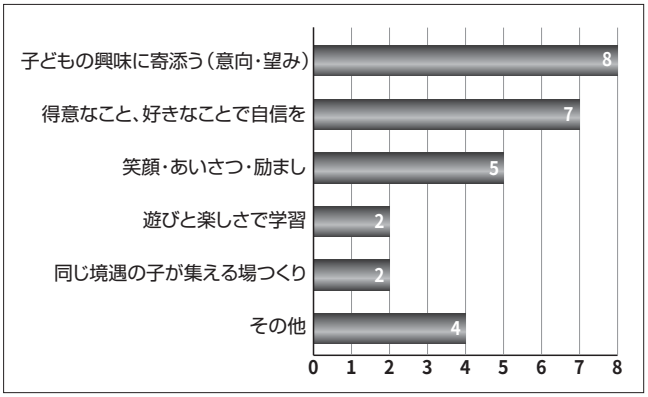
……その2

■調査対象期間／2007年9月～2008年8月
■調査対象個所数（送付数）／105
■回答回収数／55　■回収率／52%
※回答数には、複数回答、無回答が混在しています。

（岩佐幹彦）

前64号に引き続き表題の報告をいたします。

問16 児童・生徒の学習意欲の有効な引き出し方
（数字は項目数）



問17 行政・学校等との連携内容について
（保護者との連携は問18へ）

◆**行政、学校は通訳に頼り切りになっている。**
◆**子どもの紹介は行政の担当課から受ける。**
◆**行政や学校からの派遣依頼に対応している（有償）。**
◆**児童・生徒の個別報告書を作成し、教育委員会を通し担任へ報告、指導を受ける。**
◆**教科学習支援を三者の同意で行う（行政・学校・保護者）**

問18 家庭（保護者）との連携について
（問17保護者との連携含む）

◆**回答内容は25項目です。要約すると、**
保護者とは日常、連絡帳やメール、手紙等で連絡を行いつつ、連絡の取れない親にはイベント等に参加を呼びかけるなどの対応を行っています。反面保護者とは、保護者が児童・生徒を教室に連れてきた時のみの対面や、言葉や生活文化の相違から学習支援の目的・意図を理解してもらえない状況もあります。
しかし、ボランティアが積極的に連携を求め、共通の支援目標を持つことが必要との意見もありました。

問19 家庭（保護者）から児童・生徒について相談を受けたことがありますか

●相談内容は24項目が挙げられます。主なものは、
◆**学校からの連絡（通知表・連絡事項等）内容がわからない。**
◆**子どもの学習(学習方法や日本語能力不足等)についてです。その他学校生活でのイジメや登校拒否、高校受験に関する相談等。**

問20 学習支援に有効と考えられるテキスト・催事について

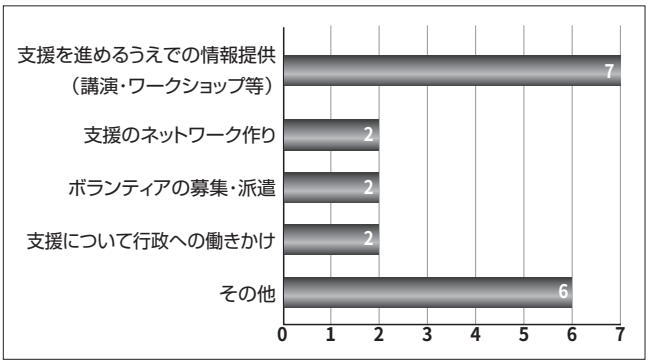
◆**テキスト・資料については問10を参照して下さい**

問21 その他、お気づきの点、参考となる事柄等について。

◆**就学対象児童は就学前からの支援が有効です。**

問22 児童・生徒の学習支援を進めるうえで「東京日本語ボランティアネットワーク」に何を望みますか。

●下記について要望をいただきました。



「八王子にほんごの会」会報150号（2008年11月号より）

第10回 外国人による日本語スピーチ大会

10回記念大会

八王子にほんごの会主催「第10回外国人による日本語スピーチ大会」を2008年10月25日（土）午後１時から京王線北野駅前、北野市民センター大ホールで開催しました。

来場者数は155名で、会員・学習者のほか、市民の皆さんの参加も多く、熱気にあふれた2時間でした。
スピーチ大会は「①自分の考えや意見を日本語で表現して日頃の学習の成果発表の場とする、②他の人のスピーチを聞いて日本語の理解力を深める、③異文化交流と共生を図る。」ということを開催目的にしています。

今年は第10回記念大会ということで、学習者主体の大会にするよう工夫しました。第8回大会最優秀賞の汪さん（中国）をゲストスピーチに招待、司会は第7回大会優秀賞のメロディーさん（マレーシア）にお願いしました。

17人の発表者

スピーチには10ヵ国17名の学習者が出場し、一人4分間の持ち時間の中で、日本で生活して感じたこと、身の回りの出来事、自分の国の文化や歴史など、日頃思っていることや意見を、ステージの上で一生懸命発表しました。

最優秀賞の邵さん（中国）は、「信念」というテーマで、力強く将来の夢を語ってくれました。主婦のリヴェリンさん（フィリピン）は幸せな家庭の話を明るい声でスピーチ、ヌルさん（インドネシア）はイスラム教のことを分かりやすい言葉で発表。
ジャミールさん（バングラデッシュ）は「もっと外国人に対してオープンな心で接してほしい」と素直な気持ちをスピーチ、ジェーミさん（イギリス）は和式トイレの使い方が分からず困ったことを若者言葉で面白く話してくれました。
会場では、スピーチに頷いたり感動の声や笑い声があがったり、拍手が響きました。

スピーチの後で

スピーチを審査する間、日本語の朗読、学習者3名による楽しいフィリピンのチョコラテ・ダンス、箱やリボンを使った手品などのアトラクションを楽しみました。
芳地審査委員長から「大会に出場するためにテーマを決め原稿を作り、練習してこられた皆さんの努力を思うと、審査はとても難しかったです。 心に響いたスピーチをありがとうございました。」との講評がありました。
表彰式で、アーメドさん（ガーナ）から「今日の大会のことは、一生忘れないでしょう。」という言葉を聞いた時は、胸がジーンと熱くなりました。

会場の声

会場からは、「教えられることが多かった。」 「今の甘えた生活を反省した。」「もっと自分の国のことを話して欲しかった。」 「ハイレベルだな～と感じた。」「民族衣装が見られて良かった。」 「素直な意見が多かった。」「発表者全員にスピリットがあり、聞く側に訴えかけた。」などの意見が寄せられました。
温かい気持ちと元気をもらった、素晴らしい一日となりました。

紙上講座

日本語ボランティア講座でのご意見、ご質問から

ひとつの方法 ── その2

東京日本語ボランティア・ネットワークは、各地での講座に協力しています。
前回に引き続き、ボランティア日本語教室で活動しているボランティアの方々に、
「自由会話」の際に困ったことを挙げてもらい、話し合いました。

●●●

個人的なことに入りこまないで話題を盛り上げるのは難しいです

この逆の場合を考えてみましょう。つまり、一般論での会話です。例えば、「中国ではどうですか」「こういう場合、アメリカ人はどうしますか」という会話の運び方です。その場合、ボランティアの側は、「日本ではこうです」「そういう場合日本人はこうします」という会話になっていくでしょう。まるで、その国の代表者の意見交換のようですね。中国は広いし、アメリカ人だって色々です。それに、「私の意見」は、日本の公式見解なのでしょうか。「私の育った地方ではこういう習慣がありますが、あなたの住んでいた町ではどうですか」「私はこう思うけど、あなたの考えはどうですか」という話の運び方の方が、より相手を身近に感じられるのではないでしょうか。いただいたご意見は、相手が話したくないかもしれない個人的な事情を聞いてしまって当惑した、というような体験から出たものではないかと思われるのですが、もし、そのような危険性を感じたなら、早目に、「それは秘密です（ニッコリ！）」という答えもありますよ、と知らせるとよいと思います。話したくないことは話さなくても構わない、というメッセージを送っておけば、互いに気軽に話ができるのではないでしょうか。

●●●

一人で話題を独占してしまう人がいるんですが、どうしたらいいでしょうか

1対1じゃない場合、つまり、ボランティア、学習者のどちらか、または両方が複数のときに時々起こる問題です。ボランティア側の一人が話題を独占する場合、それを別のボランティアの方が注意するのは、なかなか難しいことでしょう。でも、やんわりと、他の参加者へ発言を促す役ならできるのではないでしょうか。何度かそれを繰り返せば、話題を独占するボランティアの方も気がつくはずです。反対に、学習者の一人が話題を独占する場合も、他の学習者へ発言を促すのはボランティアの役でしょう。お互いに質問を回すように仕向けるとか、場合によっては、話題独占の人物に、会話の場の「司会者」をしてもらうなど、他の人物へ質問して発言を促す役を割り振ってみるのもいいかもしれません。

●●●

政治の話はどうなの？

1対1のときは、相手がそういう話題について話したいと思っているのなら、できる範囲で話せばいいのではないでしょうか。ただ、学習者が複数になると、政治的な意見、立場が違う人もいるので、配慮が必要でしょう。ただ学習者から、日本の政治についての話題が出た場合は、避ける必要はないと思います。客観的に話せば問題はないのではないでしょうか。特に、政局が不安定なときなど、日本の政治のシステムはどうなっているのか知りたい、という質問はよく受けます。基本的な日本の政治システムや、現在の政治状況についての簡単な解説をしただけで喜ばれた経験のある方は、たくさんいらっしゃるでしょう。

（翠）

nice to meet you

出合いを大切に

JCA

JCA玉川　会長 波多野礼子(世田谷区)

JCAは1983年に発足した世田谷区の日本語ボランティアグループです。会員は日本人会員外国人会員合わせて450余名となり、現在は「JCA千歳船橋」と「JCA玉川」２グループで区内９箇所に14クラスを開設しています。

昼、土曜日、夜間クラスを設け、それぞれ主婦や留学生、会社員と幅広い年齢、職業の学習者が集まります。学習目的やレベルに応じて、基本的に１対１で日本語の学習支援と交流活動をしています。生活上の支援が必要とされる時はできる範囲で応じ、関係機関への橋渡しもします。それぞれのクラスで季節毎の日本文化の紹介や遠足を企画し、週一回90分の授業をどのように充実させるか勉強会を開くなど相互の理解と交流に努めていますが、JCA全体で取り組んでいるのが「日本語教え方講習会」と「おしゃべり広場」です。

年に一度、近年は4日間、外部の先生をお招きして教え方講習会を開いています。テーマを決めて教え方を学び、日頃の疑問、質問にも答えていただける貴重な研鑽の機会となっています。

秋の「おしゃべり広場」には学習者も家族、友人同伴で参加します。スピーチやゲーム、会食を楽しみながら普段クラスを別にする会員同士、学習者同士が親交を深めます。

学習者の生活背景は多様ですが、外国で暮らす事は少なからず緊張を伴うものです。目の前に来る学習者がほっとして対話でき、学習し、温かい気持ちで帰路につける。そんな空間作りと繋がりを目指し、会員、学習者が互いに学びあっています。

JCA：Japan Culture Association

会　員　団　体　紹　介

Nice to Meet You

nice to meet you

日本文化の継承・発展・創造を目指して

日本文化体験交流塾

NPO法人日本文化体験交流塾　理事長 米原亮三

この約1年の活動で17か国約90名の方が茶道、書道、風呂敷包み、着物などの文化や、浅草・秋葉原などのまち歩きを体験しました。私たちは、日本の伝統に根ざした文化を、日本人自身が良く理解すると共に、外国人と相互交流を図ることを目的としています。現在の会員数は、61名でその半数以上が通訳案内士の資格を持っています。

江戸東京文化と国際文化を、能、和紙、浮世絵、神道などを体験しつつ、トップクラスの講師から学んでいます。また、神楽坂、皇居、谷中、両国などの地域探訪講座は好評で、今年も、飛鳥山、浅草などを予定しています。これは受講料3500円で、歴史家安藤優一郎氏や桐谷逸夫氏などの午前2時間の講義と、午後は3時間半のガイド付きまち歩きで、地域の魅力を発見するものです。外国人を案内する時にも、役に立ちます。

このほか、青少年のサマーキャンプなど団体の活動は、多岐にわたっています

が、ホームページ日本文化体験交流塾 http://www.ijcee.com/　をご覧ください。メールニュースも発行しています。

日本文化体験やまち歩きは、私たちの自主事業ですが、HISやJTBなどの旅行会社とも提携して実施することがあります。これらは、外国人からも適正な受講料をいただき、日本文化講師やガイドなど協力者には謝礼を払うなど、無償の活動はほとんどありません。これは持続し、発展する文化活動には、経済基盤の確立が必要との信念からです。今後とも、日本語ボランティアの皆様との連携を期待しております。

お問合わせは、info@ijcee.com　又は090-1607-5099までご連絡ください。

日本語ボランティアの現場から

TIC新年パーティーと学習者たちの声

TIC 田無国際交流サークル（西東京市）　代表　竹田仁之介

2009年1月25日(日)、TIC（田無国際交流サークル）の新年パーティーが西東京市市民会館で開催されました。当日は気温は低めながら快晴で、パーティー会場の窓から霊峰富士がくっきりとその姿を見せ私たちを感動させました。

学習者とその家族、ボランティアをあわせ約70名の盛会でした。冒頭の代表挨拶に続いて、恒例の学習者のスピーチ大会が始まりました。以下そのいくつかを紹介しましょう。

■学習者A……マレーシア

マレーシアから日本に来て私が最初に感じたことは、日本人の環境に対する姿勢です。日本はとてもきれいです。町で真っ黒な排気ガスを見ることはほとんどありません。私は息を大きく吸うことができて嬉しいです。TICでたくさんの友達ができました。これからもここで勉強して、もっと日本語が上手になりたいです。

■学習者B……リトアニア

日本語を始めて勉強したときびっくりしました。なぜなら日本語は三つあります。ひらがなとカタカナと漢字です。それを混ぜて使うのが私にはとても難しいです。私の国はアルファベットだけです漢字はありません、リトアニアは人口400万人の緑の国です。とても小さくて日本の北海道くらいです。気候は大変寒く、冬は時々マイナス30度もあります。東京の天気は暖かくて私は好きです。これからもっと日本語を勉強して、仕事を探して働きたいです。

■学習者C……インドネシア

私の仕事はビルの建設作業です。はじめはかなり厳しかったのですが、私には暑さ、寒さのほうが辛かったです。日本の暑さはインドネシアの暑さとは違うので、慣れるまで大変でした。これからは日本語をもっと勉強してできれば1級の資格を取りたいと思っています。私の働いている会社には、毎年インドネシアから研修生が来ますので、彼らに日本語を教えることができるようになればと考えています。

■学習者D……中国

私は昨年の7月、中国から日本に来て、ソフト開発の会社に勤めています。今経済危機のため、ソフト業界も大きな影響を受けています。派遣社員の私たちはずっと仕事をすることができません。でも〔冬来たりなば、春遠からじ〕というように長い冬が終わって春が来れば仕事が始まるはずと期待しています。

今後日本で何年間か生活し言葉だけでなく、生活習慣を体験し、いろいろ勉強したいです。将来帰国後は、日本語と中国語の二つの言語を活用できるような会社に勤めたいと希望しています。

■学習者E……中国

私は2004年秋に中国から来日しTICの夜のクラスに入ってアルバイトをしながら日本語を勉強しました。3年後に昼のクラスに移って勉強を続け、今年がもう通算5年目となります。今、私の一番大きな夢は大学の入学試験に合格することです。去年失敗しているし、まもなく23歳になるのでこれが最後の受験のチャンスです。もし不合格だった場合には、何とかよい職場を探して、本格的に働こうと思っています。いずれにしても、長い間お世話になったTICもこれで卒業です。有難うございました。

スピーチの後は全員で〔この星に生まれて〕を合唱した後、皆で持ち寄ったお料理を楽しみながら懇談しました。食事の後の余興の最初は、西東京市のボランティアグループによる〔南京玉すだれ〕。学習者はこの日本の伝統文化に目を丸くして見入り興奮して拍手喝さいでした。最高のお楽しみはビンゴゲーム。ささやかな賞品であるが学習者も家族も、ボランティアまでが一喜一憂してゲームに熱中したひと時でした。

最後は代表から〔本当に楽しい3時間でしたが、このパーティーをスタート台として今年一年元気で仲良く日本語を勉強しましょう！〕と呼びかけて閉会しました。

NETWORK INFORMATION

●活動内容や連絡先の変更がありましたらお知らせ下さい

新年度を迎えますと代表者や活動の内容を変更される団体・教室があります。
その際は是非TNVN事務局にご一報をお願いします。
「ボランティア日本語教室ガイド2008東京」を発行し、１年が経ちました。その間、活動内容や連絡先の変更、新たに「ガイド」への掲載希望のご依頼がきています。これらを折り込んだ新しい冊子の発行は現時点で費用・作業の関係で出来ません。よって、6月に訂正・追補版を作成し、各団体にお送りします。
上記の冊子に加えご活用頂きたいと計画いたしました。ご協力をお願いします。

●TNVN総会を４月26日（日）に開催 !!
TNVN会員皆様のご参加をお待ちしています。

恒例のTNVN総会を下記の通り開催します。普段なかなかお互いにお会い出来ないでいます、会員の皆さんが一堂に会して、情報交換や意見交換をして頂けたらと願っています。

◆日時：2009年4月26日（日）
　　13:00～16:00
◆場所：東京ボランティア市民活動センター
B会議室
　JR総武線・飯田橋駅に隣接する
　「セントラルプラザ」 10階
◆内容
　①2008年度の活動報告
　②2009年度の役員選出と活動計画
　③情報・意見交換会及び懇親会

■「ボランティア日本語教室ガイド 2008東京」をご活用下さい

「ガイド」をご希望の方は、頒布代金（1部700円）と送料を郵便局でお払込み下さい。
◎口座番号：00100-1-719259
◎加入者名
　東京日本語ボランティア・ネットワーク
なお、東京ボランティア・市民活動センター（TEL：03-3235-1171）でもご購入出来ます。
　冊子小包料金：1部:290円、
　2部・3部：340円、4部・5部：450円

■ニュースレターに掲載する記事をお待ちしています

　ニュースレターは３ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

Column

❖ヒューマンコミュニケーション

　ネットワークニュースのレイアウトを担当して、早くも13年が経ってしまいました。
　その間のテクノロジーの進化はめざましいものがあります。打ち合わせ、レイアウト作業、校正、入稿、すべてコンピューターの前に座っていながら出来るようになりました。便利になった反面、人と接する機会がとても少なくなり、一抹の寂しさも感じます。日頃、学習者と接しているボランティアの方々が少しうらやましくもあります。
　今はコンピューターや携帯のメールやチャットで、簡単にコミュニケーションをとる事ができます。でも、ちゃんと会話をして、言葉のニュアンスや相手の表情などから察する事はとても大切な事です。
　未曾有の大不況になり、日本で暮らす外国人の状況はとても厳しくなっていると思います。ボランティアの皆さん、こんな時こそヒューマンコミュニケーションを大切に学習者の方々に接してくださいね。
　コンピューターの前で皆さまのご健闘を願っています。　（環）

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

　TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第1、第3、第5 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時
◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線－出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル　10F ロビー
◆日本語ボランティア相談窓口
　日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。
　ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス　No.4
●TEL：03-3235-1171
（呼出：金曜日活動時間帯のみ）
●FAX：03-3235-0050
●E-mail：webadmin@tnvn.jp
●URL： http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数（2009年2月13日現在）
　正会員：86団体　協力会員：35名
　賛助会員：6団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、
　岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
　床呂 英一、林川 玲子、福井芳野
●レイアウト／鶴田 環恵